発掘速報展（平城宮跡資料館）

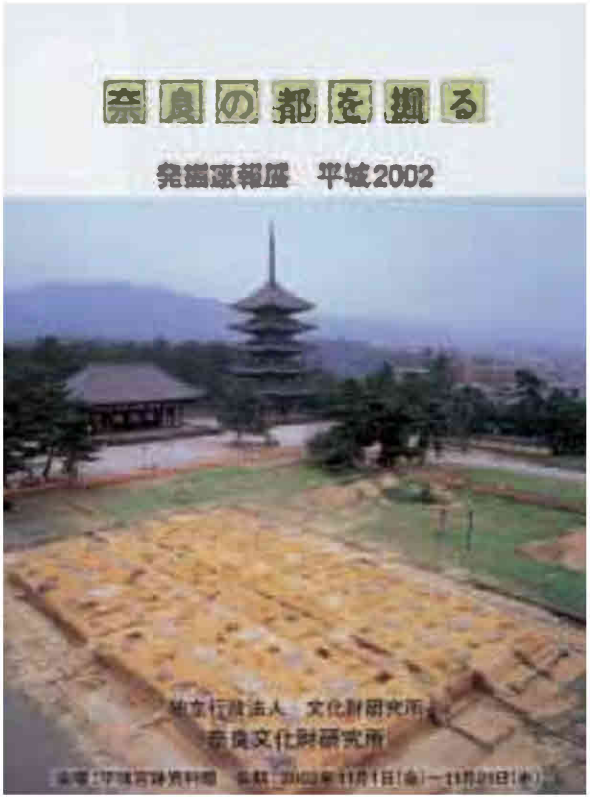
「奈良の都を掘る－発掘速報展　平城2002－」

2002年11月1日から21日まで、平城宮跡資料館で、上記の速報展を開催しました。2001年度に平城宮跡発掘調査部が実施した発掘調査の成果をまとめて紹介したものです。現地説明会の機会のなかった現場も多く、今回も好評のうちに終えることができました。展示からいくつか紹介します。

平城宮では、まず第一次大極殿院西楼（第337次）の調査では、赤色の彩色（ベンガラ）を残す「埋め木」が目をひきました。赤い柱は奈良の都を象徴するものともなっていますが、平城宮跡内で実際に赤塗りの柱材の実物が出土したのは意外にも今回が最初です。「小便禁止」看板などの木簡にも熱い目がそそがれました。木簡の現物展示は保存上、多くの困難をともないます。今回も照度計を設置するなど、展示環境のデータの蓄積につとめました。平城宮では、ほかに、第二次朝集殿院南門（第326次）の位置を確認し、規模、造営工事の過程が判明したことを紹介しています。

平城京内では、宅地と寺院の調査が主になりました。長屋王邸の中枢部の調査（第329次）では、懸案であった建物規模を確定しました。寺院では、興福寺関係の調査が主で興福寺中金堂では、創建時以来の度重なる火災と復興の様子を展示しました。一乗院（第330次）と大乗院（第336次）ではともに、園池の変遷をたどりました。明治以降、一乗院は裁判所に、大乗院は一時小学校の敷地になっています。今回は、こうした近代史に関わる出土遺物も展示しました。ノート代わりに使われた石盤（せきばん）の前では、昔話に花を咲かせる姿がみられました。

（文化財情報発信専門官　千田剛道）



「奈良の都を掘る」リーフレット表紙